

EUSI メールマガジン Vol. 047

「スコットランド独立問題と通貨、エネルギー」(工藤芽衣)

EUSI (EU Studies Institute in Tokyo)は、一橋大学・慶應義塾大学・津田塾大学の3校のコンソーシアムによるEUに関する教育・研究・広報を行う拠点です(詳しくは以下をご覧ください)

http://eusi.jp/content_jp/aboutus/about_eusi/

【EUSI Commentary Vol. 032】

「スコットランド独立問題と通貨、エネルギー」

工藤芽衣 (EUSI 研究員(経済)・津田塾大学国際関係研究所研究員)

2014年9月18日、スコットランドでは、イギリスからの独立を問う国民投票が行われる予定となっている。国民投票の結果、賛成多数となれば、スコットランドは独立に向けた準備を本格的に進めて行くことになる。

スコットランドは歴史的にイギリスからの独立の道を模索していたが、今回、直接的な国民投票提案が浮上したことの背景には、北海油田収入をイギリス政府に奪われることへの不満や、ロンドン中心の経済政策運営に対する不満があるとされている。

特に石油収入に対する不満は強く、アバディーン大学教授アレックス・ケンプ (Alex Kemp)の調査によると、北海の石油生産の98.8%、ガス生産の60%が、スコットランド沿岸に由来し、もしもスコットランドが国家として独立していれば、国際法上はそこから得られる税収はすべてスコットランドのものとなるはずが、現在はイギリスの一地域であるため、イギリス中央政府の国庫収入となっているという。

スコットランドとイギリス全体の経済を比較すると、一人当たり国内総生産はそれぞれ23,391ポンド、23,673ポンド、失業率は7.3%、7.8%と大差なく、財政赤字については、スコットランドが5.8%、イギリスが7.9%となっている(2012年発表)。

そのため、スコットランドに関しては、独立可能か否かという問題ではなく、スコットランドにとってのより良い将来が、イギリス残存と独立のいずれにあるのかであるとも言われている。しかし、新国家形成は、統計上の数値だけで判断できるものではなく、問題はそれほど単純ではないはずである。

スコットランド独立後の財源として期待されているのが北海の石油とガスからの収益である。スコットランド自治省によると、スコットランド沿岸で生産される石油・ガスの税収は、2011年から2012年には106億ポンドで、2018年までには480億ポンドとなることが予測されており、豊富な税収の見込みは今後数十年継続するという。

一方、ガーディアン紙によると、石油収入は、生産量だけでなく、国際的な石油価格の変動や生産コストにも左右されるため不確実であり、また、北海の石油とガス生産は1999年から2000年にピーク迎えた後低下傾向にあり、今後も低下が予測されるという。

次に通貨の選択の問題がある。スコットランド自治省の財政委員会による2013年4月の調査では、イギリスとの正式な通貨同盟、新通貨の創出とポンドへの非公式の固定、新通貨の創出と変動相場、ユーロ導入の可能性が検討された。委員会は・・・

・・・

(続きはこちら↓)

<http://www.hit-u.ac.jp/kenkyu/eusi/eusicommentary/vol32.pdf>

【EUSI イベントご案内】

1. EUSI 津田公開講座「欧州議会選挙と極右・欧州懐疑主義」

日時: 2014年6月14日(土) 13:00-17:00

場所: 津田塾大学 小平キャンパス 1号館第会議室

講演:

「右翼ポピュリスト政党は、なぜEUに反発するのか？」

古賀光生 (二松学舎大学専任講師)

「欧州議会選挙とバルト諸国の右翼政党・ポピュリスト政党」

中井遼 (立教大学助教)

「イギリスにおける新興政党の伸張『欧州懐疑主義』？」

若松邦弘 (東京外国語大学教授)

司会・開会挨拶: 網谷龍介 (津田塾大学教授)

参加: 無料・申込み要

申込・問い合わせ先: EUSI 津田分室 eusi@tsuda.ac.jp

<http://eusi-politics.tumblr.com/post/85906140105/eusi-2014-6-14>

2. EUSI 津田公開講座「EUにおける移民政策・多文化主義」(仮)

日時: 2014年7月12日(土) 13:00-17:00

場所: 津田塾大学小平キャンパス

講演: 昔農英明 (津田塾大学・一橋大学講師)

清水謙 (東京大学大学院)

寺本めぐ美 (津田塾大学大学院)

討論: 浪岡新太郎 (明治学院大学准教授)

【EUSI からのお知らせ(イベント以外)】

1. EUSI スカラーシップ・インターンシップ 2014 (EUSI 加盟大学大学院生対象)

EUSI は、EU に関わる研究の遂行を目的に欧州へ渡航する大学院生を対象に奨学金を支給します。以下の募集要項に従い、奮って応募してください。

対象者: 一橋・慶應・津田塾の各大学院(課程修了者含む)で EU 研究を行う者
研修先機関:

- スカラーシップ: EU 加盟国内の大学・教育研究機関・EU 諸機関・補助機関等
- インターンシップ: EU 諸機関・補助機関優先、その他 EU 関連 NGO・企業も可

奨学金: 1人につき上限 52 万円 (渡航費と日当)

派遣期間: 2014年8月1日-2015年7月31日の間で研究に必要な期間

応募書類: 申請書、研究履歴、研究計画、研究日程表、推薦状、支出計画書
募集期間: 2014年5月8日(木)-6月20日(金)
選考機関: 2014年6月23日(金)-6月27日(金)。面接の日時は事前に本人に通知
選考結果: 2014年7月1日(火)発表

EUSI スカラシップについてはこちら
http://eusi.jp/content_jp/education/scholarship/
EUSI インターンシップについてはこちら
http://eusi.jp/content_jp/education/internship/

2. EUSI では関連するプログラムとして以下の HP でも情報を発信しています。
併せてご活用ください

一橋大学大学院 EU 研究共同プログラム
Website: <http://www.law.hit-u.ac.jp/graduate/eu/>
Blog: <http://eublog.law.hit-u.ac.jp/>

EUSI 政治プロジェクト
Website: <http://eusi-politics.tumblr.com/>
Twitter: [@eusipol](https://twitter.com/eusipol)

【EUSI 所属研究者による記事・執筆情報紹介】

小川英治 (EUSI 理事長、一橋大学副学長、一橋大学大学院商学研究科教授)
吉國眞一、春井久志、小川英治編『揺れ動くユーロ 通貨・財政安定化への道』
(蒼天社出版、2014年4月刊行)
<http://www.amazon.co.jp/dp/4901916327/>

【EU に関するニュース】

- 2014年5月1日 EU 第5次拡大10周年。中東欧10カ国のEU加盟より10年を祝し、前日バロゾ委員長が祝福の声明
- 2014年5月1日 WTO、ロシアがEU第3次エネルギー計画は同国のエネルギー事業者に差別的として提訴と発表
- 2014年5月2日 Eurostat、3月失業率(季節調整済)はユーロ圏18カ国11.8%、EU28カ国10.5%と共に前月と同率
- 2014年5月3日 アシュトン EU 上級代表、世界報道自由デーに寄せて、報道の自由と透明性向上のための声明
- 2014年5月5日 ユーログループ財務相会合、ポルトガルの財政再建を評価、同国への経済調整計画終了を支持
- 2014年5月5日 欧州委員会、2014年春季経済見通し発表。昨年で景気後退より脱出、GDP 成長率改善と予測
- 2014年5月5日 欧州委員会通商総局、EUとの二者間貿易各相手国別統計発表
- 2014年5月6日 EU 経済・財務相理事会、銀行破綻処理に関する指令及び規則採択。株主や債権者も負担分担
- 2014年5月6日 Eurostat、2013年対日貿易は、輸出が540億ユーロ、輸入が565億ユーロ。特に輸入が大幅減
- 2014年5月7日 第22回目・EU 定期首脳協議。経済・安保・女性の社会進出の3分野での協力推進などで合意
- 2014年5月7日 外務省・駐日 EU 代表部、第5回目・EU 英語俳句コンテスト「素敵な出会い」6月27日まで募集

- 2014年5月7日 Eurostat、2013年CO2排出量は22加盟国で前年比減、EU全域で同2.5%減との推計発表
- 2014年5月8日 EU外務理事会、日・EU EPA交渉を協議。日本の非関税障壁や政府調達などの報告作成を指示
- 2014年5月8日 EU外務理事会、通商協定に関する諸問題をめぐりEUが統一的な法的措置を取る法的枠組を承認
- 2014年5月8日 ECB政策理事会、政策金利を過去最低水準の0.25%に6カ月連続で据置き
- 2014年5月8日 アシントンEU上級代表報道官、南シナ海での中国・ベトナム船衝突による緊張化の懸念の声明
- 2014年5月9日 ヨーロッパ・デー
- 2014年5月9日 アシントンEU上級代表、4月末の米オクラホマ州での死刑執行に対し遺憾と死刑廃止を求める声明
- 2014年5月10日 アシントンEU上級代表、南スーダン政府と反政府勢力の和平合意に歓迎と実施への関心の声明
- 2014年5月12日 EU外務理事会、ナイジェリアでの女子高生集団拉致事件に関して強い非難と同国支援を決議
- 2014年5月12日 EU外務理事会、ウクライナ情勢に関する制裁拡大決議。対象者追加と資産凍結の法的根拠規定
- 2014年5月12日 ファン＝ロンパイ常任議長、ウクライナ訪問。国内安定化・暴力停止・民主主義問題など協議
- 2014年5月12日 Eurostat、EU意識調査「Europeans 2014」発表。市民のEUへの信頼性や経済見通し、共に向上
- 2014年5月12-13日 「EUがあなただの学校にやってくる」開催。駐日EU代表部・EU加盟国外交官ら全国83校訪問
- 2014年5月13日 E3/EU+3イラン核協議
- 2014年5月13日 EU一般問題理事会、2004年第5次拡大10周年に対し祝意、カラス欧州副委員長ら演説
- 2014年5月13日 欧州委員会、EU・米FTP(TTIP)の国家・投資家間紛争解決(ISDS)に関するステークホルダー会合
- 2014年5月13日 欧州委員会、国際大学新ランキング「U-Multirank」公開。世界74カ国・約850もの大学を評価
- 2014年5月13日 欧州委員会・ウクライナ政府代表階級。同国の主権・領土一体性・国民対話推進支持等の声明
- 2014年5月14日 EU、ソマリア沖海賊対策コンタクト・グループ第16回総会で議長。合理化や作業部会改革承認
- 2014年5月14日 アシントンEU上級代表、ブラヒミ・シリア特別代表辞任に対し、同氏の貢献を称賛する声明
- 2014年5月14日 アシントンEU上級代表報道官、ベラルーシの死刑執行に対する非難と死刑廃止を求める声明
- 2014年5月14日 駐日EU代表部、EUアニメーション・デー開催。国際ワークショップ参加報告や短編上映
- 2014年5月15日 EUアフガン特別代表、アフガン・パキスタンに関する国際コンタクト・グループ東京会合参加
- 2014年5月15日 アシントンEU上級代表報道官、スーダンの背教行為への死刑判決受け信仰自由と死刑廃止訴え
- 2014年5月15日 EU理事会、表現の自由に関するEU指針を採択
- 2014年5月15日 Eurostat、1-3月GDP(季節調整済)はユーロ圏18カ国で前期比0.2%増、EU28カ国で同0.3%増

【編集後記】

今回の巻頭エッセーは、工藤EUSI研究員にスコットランドの独立問題を経済的な側面から分析していただきました。

スコットランドの住民投票は9月に予定されていますが、ご存知のように、歴史を振り返ってみただけでもスコットランドとイングランドとの関係は複雑なものがあります。また、先日の欧州議会選挙においても、イギリスでは反EUを標榜する独立党が大きく票を伸ばしていますが、スコットランド問題(イギリス

問題)は欧州統合のあり方にも大きな影響を及ぼしていくことになると思われます。

エネルギー、環境、通貨は、いずれも現代社会において多くの人々の生活に深く関わる重要な問題だと言えますが、特に、複雑な国際通貨の世界において、ユーロという統一通貨の行く末や他の通貨との関係などはまだまだ不透明な要素を抱えていると言わざるを得ません。多重、多様な欧州の地域統合について理解を深めていただければ幸いです。

今回は、田中俊郎慶応大学名誉教授に欧州議会の選挙結果をどう見るのかという視点から執筆をしていただく予定です。

(藤川哲史・EUSI・一橋大学・EUSI メールマガジン編集担当)

この週末、今後の欧州の動静を決める2つの大きな選挙が行われました。ひとつは、5月22-25日に行われた欧州議会選挙です。今回の選挙はリスボン条約発効により欧州議会の権限が拡大した後の初の選挙であり、また2009年の欧州債務危機後の初の選挙でもあります。各政党は欧州委員長候補を擁立し、今後5年間のEUの進路を規定する上で、民意を反映する非常に重要な機会です。ですが、この欧州の「民意」を測るとするのは容易ではありません。

欧州議会選挙の投票率はこれまでも減少傾向にあり、また加盟国国民とEU市民という視点の違いや主権の移譲に関わる問題、さらに経済財政改革など痛みを伴う改革へのポピュリズム的観点からの嫌悪感、EUがEU市民に対して具体的な利益や福祉を目に見える形で提供できていない、等々考えるべき点が多数出てきます。

まだ確定結果が出る前ですが、欧州議会の現段階の暫定推計では、最大会派の中道右派である欧州人民党(EPP:暫定推計212議席)と、中道左派である社会民主進歩連盟(S&D:186)を中心とした構図は変わりません。ただ他方で、統合に対して懐疑的な反EU政党が大きく票を伸ばし、全体の2割近くの141議席を占めると言われています。また、投票率も43.09%と、前回2009年選挙と同様の低水準にとどまり、欧州市民の「民意」が大きく反映されているかどうか、見据える必要があるでしょう。

もうひとつは、5月25日に行われたウクライナ大統領選挙です。クリミアは「住民投票」によりロシアへ併合され、また東部ドネツクなどでは親ロシア派武装勢力が分離独立を主張し、選挙に対する妨害が数多く展開されました。そのような中で行われた選挙でしたが、親欧米派のポロシェンコ元外相が過半数を獲得する見込みとされています。

新たに選出された大統領は、分裂の危機にあるウクライナ国内をまとめつつ、隣国ロシアとの関係の調整、さらにEUとの連合協定や支援など、難しい舵取りが要求されます。ポロシェンコは旧ソ連で人気の菓子メーカーの経営者でもあるようですが、情勢はチョコレートのように甘くはなさそうです。

なお欧州議会選挙に関しては、次号の田中俊郎先生の巻頭エッセイのほかにも、EUSI津田公開講座「欧州議会選挙と極右・欧州懐疑主義」を6月14日に開催する予定です。ぜひ多くの皆様の御参加をお待ちしています。

(林 大輔・EUSI 慶應分室・EUSI メールマガジン編集担当)

EUSI (EU Studies Institute) in Tokyo
〒186-8601 東京都国立市中 2-1

一橋大学 マーキュリータワー#3504 EUSI 事務局
TEL: 042-580-9117 / E-mail: info@eusi.jp

ご意見、ご感想、配信登録・配信停止、その他メールマガジンについての
問い合わせにつきましてはこちら
E-mail: info@eusi.jp
